

三重の木を使おう、
森を育てるために



木をよく
知ろう

木と
もっと
親しもう

木を使おう

三重の林業



第4回みえの木建築コンクール[住宅新築部門]知事賞「木漏れ日の家」
(関連記事6ページ)

目次

話題を追って	スポットワーク活用のススメ ～晃榮林業株式会社の取組から学ぶ～	2
	熊野農林事務所 林業普及指導員 平田 聖	
話題を追って	三重県林業技術普及協会・三重県森林協会 令和7年度先進地視察研修会に参加して	4
	農林水産部 森林・林業経営課 木材利用推進班 西 健太郎	
話題を追って	「第4回みえの木建築コンクール」及び「みえの木製品コンテスト2025」の入賞作品が決定しました	6
	農林水産部 森林・林業経営課	
話題を追って	第37回みどりの少年隊交流集会在が開催されました!	8
	農林水産部 みどり共生推進課	
話題を追って	第4回みえ森林教育シンポジウムを開催しました	9
	林業研究所 普及・森林教育課	
頑張ってます!	ノウフク・アワード2025 フレッシュ賞受賞!	10
	NPO法人 笑(ふ)福(く) 代表理事 藤岡まりさん 聞き手:尾鷲農林水産事務所 林業普及指導員 伊藤 克之	
寄稿	長森なあな日常 ～皆さん林業は好きですか?～	11
	松阪飯南森林組合 長森 悠介	
この人に聞く	第121回 架線集材のおはなし ～株式会社川口屋に聞く～	12
	聞き手:松阪農林事務所 林業普及指導員 妻藤 李白	
連載	<三重大学>第35回 森林利用学 雑感	14
	三重大学 名誉教授 石川 知明	
技術情報	木材の強度と最も関係の深いものは何?	16
	林業研究所 研究管理監 山吉 栄作	
木材市況	木材市況(令和8年2月)	18
その他	三重の林業(令和8年1月号)を読んで ～読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました～	18

2026年3月
No. 451

バックナンバーはこちら



スポットワーク活用のススメ ～晃榮林業株式会社の取組から学ぶ～

熊野農林事務所 林業普及指導員 平田 聖

農山漁村地域における高齢化・人口減少が進行する中、農林水産業や農山漁村体験事業においてもスポットワーク※を活用する動きが見られます。

今回は、スポットワークを取り入れて労働力を確保している晃榮林業株式会社の取組を取材しましたのでご紹介します。

※スポットワークとは、「短時間・単発の就労を内容とする雇用契約のもとで働くこと」一般社団法人スポットワーク協会HPより (<https://www.iaswa.or.jp/faq/>)



植栽の現場にて。左から、
松井 優人さん 同志社大学 文学部3年（以下、松）
田岡 黎斗さん 同 経済学部3年（以下、田）
須永 瑛太さん 同 経済学部3年（以下、須）
花尻 純明さん 同 商学部3年、
晃榮林業株式会社代表（濱口 輝久）の長男（以下、花）

○晃榮林業株式会社のスポットワークとは。

——この取組はなぜ始まったのですか？

（花）会社の造林部門が人手不足と高齢化が進んでいて、士気も下がりつつあったので、若い労働力を呼び込もうと考えたことから始めました。

——具体的にはどんな条件ですか？

（花）朝6時起きで15時までの実働6時間半で1万円、事務所に泊まり込みの3食付きという形を友人に提案したところ関心を持ってもらえました。実際に来てもらい好評だったため、現在は継続して参加してもらう形になっています。

——なぜ林業をしてみようと思ったのですか？

（田）身近にあるアルバイトは居酒屋などの都市的なものが多い中で、林業は珍しく感じ、せっかくなら一度、体験してみようと思いました。

（須）僕は、自然が大好きだったこともあって話を聞き、関心を持ちました。先に2人が体験していて、楽しそうにしているし、自分も行ってみたいなと思って来るようになり、今回が15回目のバイトです。

（松）興味本位な部分もありましたが、なかなか体験できないことだと感じていました。企業が山を所有しているケースもありますし、SDGsが注目されている流れの中で、試しに体験してみようと思いました。社会勉強にもなり、地域貢献にもつながればと考えたのが理由です。



獣害防護柵の網張り作業の様子

○山に登ることが想定外だった

——林業に対してどんな印象を持っていましたか？

（須）林業は危険だというイメージがありました。高い場所で傾斜もあり、怪我をする確率が高いと聞いていたので、大丈夫だろうかと感じていました。実際には、危険に対してヘルメットなどの装備が会社でしっかり整えられていて安心しましたし、チェーンソーや重機を使った作業だけでなく、来てすぐにできる仕事もあることを知りました。

（田）林業とは何か、というところからのスタートでした。正直なところ、山に登るとは聞いていなかったのが驚きました。

ただ、山に登ったあとの仲間との作業自体は、それほど苦には感じませんでした。

(松) 林業といえば木を切る仕事というイメージでした。今回の体験で、木を切るだけで終わるのではなく、その後に植林を行い、そのサイクルを回していくことが林業なのだと知りました。

——実際に働いてみてどうでしたか？

(田) 朝6時に起きて15時に仕事が終わるという生活は、これまでの自分の体を驚かせるような、そして普段の生活と比べると、健康的な生活スタイルだと感じました。

また、作業する場所が本当に誰もいない環境で、人の目に触れない仕事を積み重ねることで森林が成り立っているのだと、自分が作業に関わったこともあり、強く実感しました。

(須) ストレスは比較的感じにくい仕事だと感じました。体力的にはとてもきついものの、飲食店でアルバイトをしたときに感じていたような精神的なストレスはほとんどありませんでした。作業そのものは楽しめています。

(松) 自然と身近に触れ合える点が、この仕事の大きな魅力だと感じました。また、地域の人々との交流も、こうした仕事でなければ得られない体験であり、自分にとって良い刺激になっています。



取締役お手製のお弁当でお昼をとる学生たち

○スポットワーク受け入れの効果

——実際に働いてもらってどうでしたか？

(花) 当初は、参加した人の多くが音を上げるだろうと予測していましたが、想像の10倍はきついと感じるだろうなと思っていましたが、実際には何度も来てくれ、さらに口コミで林業の話が広がり、これまでに10人が来てくれました。今までやっていた飲食店のバイト等を辞めて、毎月のように来るようになった友人もいて驚いています。

業界にいと林業はきつだけというイメージ

が先行しますが、業界外の学生に林業への良いイメージを持ってもらえたことは良かったと感じています。

今後も若者に興味をもってもらうためには、カッコいい林業をアピールすることが重要ではないかと考えているので、そうしたPRをしていきたいです。

(濱口 千穂 取締役)

担い手不足対策として大型ドローンで資材運搬することがありますが、スポットワークであれば資材運搬だけでなく獣害防護柵の設置や植栽なども行ってもらえます。経費や手間は掛かりますが、現場が進むのありがたいです。

実際やってみると、継続的に来たいと言ってくれる子が多くて驚いています。それどころか希望者が多くすべてを受け入れきれない状況です。

チェーンソーや刈払い機等の特別教育を受講したいと言ってくれる子もいるので、今後さらにできる仕事を増やす予定です。

○終わりに

今回の取組は、関係者が在学中だから出来る取組ですが、「おてつたび」等の既存のサービスを活用する等の工夫次第で同様の取組が可能です。

県では、県内の農林水産業や農山漁村体験を営む事業者を対象に「農山漁村スポットワーク推進事業」を令和7年度から始めていますので、是非、皆さんもチャレンジしてみてください。

・令和8年度の本事業の内容～

①スポットワーク活用促進に係る補助

スポットワーク雇用仲介事業者等に支払った人材紹介手数料（サービス利用料）等の経費を補助します。

②受入環境整備に係る補助

スポットワーカーの受け入れに必要な、宿泊所等の施設整備（内装工事、ベッド・洗面台等の設置）に必要な経費を補助します。

詳細は以下のHPをご確認ください。



<https://www.pref.mie.lg.jp/D1NOURIN/p0029300004.htm>

三重県林業技術普及協会・三重県森林協会 令和7年度先進地視察研修会に参加して

三重県農林水産部 森林・林業経営課 木材利用推進班 西 健太郎

令和7年11月20日、21日の2日間、三重県林業技術普及協会・三重県森林協会主催の「令和7年度先進地視察研修会」に参加しましたので、その概要をお伝えします。

今回は徳島県で「森林経営管理制度」に係る先進事例を学ぶとともに、「徳島木のおもちゃ美術館」の見学を行いました。

○公益社団法人徳島森林づくり推進機構

まず初めに、とくしま林業アカデミーにて、「公益社団法人徳島森林づくり推進機構」（以下「機構」という。）から、森林経営管理制度等の事業内容の説明を受けました。

・機構について

機構は、分取林経営や森林管理受託等を行ってきた「徳島県林業公社」と、緑の募金活動を進めてきた「とくしま森とみどりの会」が平成26年に合併して発足し、森林に関するワンストップ窓口として、管理が行き届かない恐れがある森林の状況把握、団体や企業など多様な主体の協働による森林整備、公有林化の推進、林業の担い手づくりなど、全方位的に徳島の森林づくりに取り組んでいる。

・森林経営管理受託事業について

事業の一つである「森林経営管理受託事業」では、公有林と私有林の一体的管理を進めるため、所有者と委託契約を結び、森林経営管理を受託しており、受託森林の面積は令和7年3月末時点で3,478ha。

経営管理の内容は多岐にわたっており、森林の調査、森林経営計画の樹立、保育施業、伐採、販売等、所有者の要望や森林の状況に応じて実施している。

奥地林などの条件が不利な森林経営も管理受託し、企業からの募金を活用して整備を行う「とくしま協働の森づくり事業」を併せて実施している。

・森林管理システム推進協議会について

森林経営管理制度に係る、市町村が主体で行う業務を、市町村から委託を受け、共同で合理的に実施するため、「森林管理システム推進協議会」を令和元年度に設立し、機構が運営している。

県南部の5市町で組織される「とくしま南部地域森林管理システム推進協議会」と、東部・吉野川流域の5市町で組織される「徳島東部・吉野川流域森林管理システム推進協議会」があり、機構

は両協議会の事務局として、制度の周知や、所有者の意向調査、その後の管理受託のあっせん等を担っている。



とくしま林業アカデミー 大講義室

○とくしま林業アカデミー

続いて、修了生の林業就業率が100%である「とくしま林業アカデミー」（以下「アカデミー」という。）から説明を受けました。なお、アカデミーは機構が運営しています。

・アカデミーについて

アカデミーでは新規就業希望者を対象に、県産材の増産や適正な森林整備につながるような人材の育成を平成28年度より行っている。

1年間のカリキュラムを通して林業に関する特別教育及び技能講習修了証等の11種類の資格が取得できる。座学、実習の後、インターンシップにて、森林組合や林業事業体などの仕事を現場で体験した後、卒業という流れとなっている。

これまでの修了者は134人で、修了者の約四分の一は新規学卒者であるが、その他は、他業種からの転職者である。



グラップルのシミュレーター

○一般社団法人やましごと工房

2日目の最初は、市町村が実施する森林経営管理業務を全面的にサポートしている「一般社団法人やましごと工房」（以下「やましごと工房」という。）から、事業内容について説明を受けました。

・やましごと工房について

やましごと工房は、森林経営管理制度に対応する市町村の支援組織としてできた団体で、平成30年10月に美馬市、つるぎ町、徳島県を構成員として設立し、令和2年11月に法人化した。

意向調査、境界明確化、集積計画案の作成、市町村森林経営管理事業の設計・管理等を一括してやましごと工房が担うことで、市町村担当者の負担軽減、円滑な森林整備の推進を図っている。

また、森林経営管理制度を活用し、適正な森林管理を維持するとともに、森林整備事業を地元の零細な事業者が発注することで、雇用対策や就業機会の増大に繋げることをポリシーとしている。

・森林経営管理制度に関する業務について

やましごと工房では、意向調査、集積計画策定支援、実施権配分計画策定支援、森林経営管理事業支援、境界明確化の業務を実施しており、令和6年度までに美馬市及びつるぎ町に支援した業務実績は次のとおり。

- ・経営管理意向調査実施面積：7,463ha
- ・経営管理権集積計画策定面積：2,017ha
- ・経営管理実施権配分計画策定面積：59ha
- ・森林経営管理事業実施面積：76ha（保育間伐）
- ・森林境界明確化実施面積：5,988ha

・業務進捗のポイントについて

森林経営管理制度の業務を進めるためには、森林の場所や所有者、境界等の情報が必要である。正確な林地台帳があればこれらの情報を得ることができるため、やましごと工房が業務を展開できた背景には、正確な林地台帳がミソとなっている。

なお、徳島県では平成27～29年度に県下全域の林地台帳情報（台帳と地図）の情報を整備する事業を県主体で行っている。

・森林境界明確化の取り組み

林地台帳地図や過去の空中写真を重ね合わせ、境界を現在の地形に合わせた調査素図を用いて所有者と境界を確認している。所有者との現地調査等の結果を踏まえ調査素図を修正のうえ、正式な境界推定図を作成し土地所有者から同意を得ている。

○徳島木のおもちゃ美術館

最後に、徳島県の「木育の中核拠点」として、赤ちゃんから高齢者まで森林や木の恩恵を学び、遊び、体感できる施設である、「徳島木のおもちゃ美術館」（以下「おもちゃ美術館」という。）を見

学しました。

・おもちゃ美術館及び木育について

おもちゃ美術館は、令和3年10月にオープンした県立施設で、年間来場者は約15万人、累計約58万人が訪れている。

徳島県では、県民の生活に必要な物資としての木の良さ及びその利用の意義を学ぶ活動を木育として、県産木材利用促進条例において木育の推進を位置づけており、県内20か所に木育推進拠点を設置するとともに、企業、市町村、団体が参画した「とくしま木づかい県民会議」、西日本初となる「全国木育サミットin徳島」を開催するなど、木育に関する様々な取組を行っている。



徳島木のおもちゃ美術館 里山ひろば

○終わりに

2日間の研修を通して印象に残ったのは、私が木材利用担当ということもあり、おもちゃ美術館の見学です。木の温かみが強く感じられ、一日中滞在したいと思える施設でした。

また、当日は大勢の親子でにぎわっていたことや、これまで非常にたくさんの方がおもちゃ美術館に訪れていることから、多くの親が、子どもが木に触れられる機会を求めているのだと感じさせられました。三重県でも県民の皆さんに木に触れ、利用されるように取組をさらに進めていきたいとあらためて思いました。



「第4回みえの木建築コンクール」及び「みえの木製品コンテスト2025」の入賞作品が決定しました

三重県農林水産部 森林・林業経営課

県では「森林資源の循環利用」を推進し、三重の森林を元気にするため、県産材の利用拡大に取り組んでいます。

その一環として「第4回みえの木建築コンクール」及び「みえの木製品コンテスト2025」を開催しており、このたび入賞作品が決定しましたのでご紹介します。

■第4回みえの木建築コンクール

住宅新築、住宅リフォーム、非住宅の3部門で合計19点の応募がありました。各部門の知事賞（最優秀賞）は次の作品です。

【住宅新築部門】

知事賞「木漏れ日の家」

- ・設計者：結設計室
- ・施工者：有限会社山路工務店
- ・講評

庭に自生する柿の木に寄り添い、ひっそりと佇む平屋の小住宅である。そのスケール感と杉板張りの落ち着いた外観が、建物と外構との一体感を生み出している。内部は白い壁が木の床や天井を引き立て、温もりのある空間を演出している。各所にヌックや書斎、ピアノを置いた土間などの多彩なコーナーが設けられ、木の家具や仕上げと相まって居心地の良さを醸し出している。細部にまで丁寧にデザインされており、設計者のこだわりがうかがえる秀作である。



【住宅リフォーム部門】

知事賞「薪ストーブが灯す百年古民家」

- ・設計者：結設計室
- ・施工者：有限会社山路工務店
- ・講評

旧街道沿いに建つ築100年を超える古民家を再生した完成度の高い作品である。外壁をトタンからササラ子下見板に張り替えるなど、外観を建築当初の姿に近づけることで、歴史的な町並みの継承に寄与している。内部は木構造の美しさが表現され、既存の木格子や雨戸などの建具を再利用することで、時を重ねた木の風合いが空間に深みをもたらしている。

今後も長く安心して快適に暮らせる住まいとするため、古民家としての魅力を損なうことなく、耐震性や断熱性を高め、省エネ等級4以上の性能を確保していることも評価できる。



【非住宅部門】

知事賞：第2名古屋三交ビル

- ・建築主：三交不動産株式会社
- ・設計・施工者：株式会社竹中工務店
- ・講評

誰でも立ち寄ることができる、美しい“みえの木”に包まれた天井高10mの大空間は、大胆さと繊細さが絶妙に呼応し、テナントビルの個性を際立たせている。

総合設計制度に定める屋内型公開空地に必要な十分な天井高さは、容積率等の制限を最大限緩和すると同時に、火災時の天井面への延焼リスクも低減する。避難経路でもあるエントランスホールは、スプ

リンクラーと機械排煙設備を設置すること等で内装制限を解除し、香り豊かな空間を実現している。

都心を行き交う人々に惜しみなく木の空間体験を提供するデザインは秀逸である。



■みえの木製品コンテスト2025

デイリーユース、ビジネスユースの2部門で合計47点の応募がありました。各部門の最優秀賞は次の作品です。

[デイリーユース部門]

最優秀賞：木製システム家具 イキクッカヒノキ

- ・応募者：株式会社KISE
- ・作品紹介

熊野産のヒノキ材を使った木製システム家具「イキクッカヒノキ」を使った学習机ユニットです。ドライバー1本で組み立てができ、組んだ後からでも棚板、デスク、ハンガー掛けは位置を簡単に移動させることができます。シンプルな本棚からデスクそして洋服掛けへ、子供の成長や使い勝手に合わせて自分の好きな形にカスタマイズできます。

イキクッカはフィンランド語で「永遠に咲き続ける花」という意味です。

- ・評価のポイント

生活スタイルの変化に応じて形を変えられ、長く使い続けられる点が評価されました。



[ビジネスユース部門]

最優秀賞：リプラウッドプランター R・W・P

- ・応募者：西川建設株式会社
- ・作品紹介

朽ちない樹脂+木材のハイブリッドなりサイクルプランターです。

- ・評価のポイント

アイデアの目新しさや、企業の応接スペース等で活用が期待でき、普及性が高い点が評価されました。



表彰式の様子や最優秀賞以外の受賞作品については、以下の二次元バーコードからご覧になれます。



建築コンクール



木製品コンテスト



第37回みどりの少年隊交流集会在開催されました!

三重県農林水産部みどり共生推進課

令和7年12月13日(土)に伊賀市で開催された「第37回みどりの少年隊交流集会」の様子を紹介します。

みどりの少年隊交流集会について

三重県内で活動するみどりの少年隊が一堂に会し、体験活動や日頃の活動発表などを通じて交流を深める場が「みどりの少年隊交流集会」です(主催:公益社団法人三重県緑化推進協会)。

本年度は、里山かがく学院(伊賀市)を会場として、菟野町の朝上みどりの少年隊、千種みどりの少年隊、竹永みどりの少年隊から19名の隊員と8名の指導者が参加しました。また、里山をしる会の辻本代表のほか5名の皆さんに協力していただき、子どもたちに落ち葉拾いとたい肥づくり、忍者修行を体験してもらいました。



参加者で記念撮影

当日の様子

開会式では、千種みどりの少年隊の2名の隊員から、「緑に親しみ、自然を愛する心と体をきたえます。」「規律正しく行動し、互いに力を合わせ、美しい郷土の緑を守り育てます。」と誓いの言葉の宣言がありました。

その後、3班に分かれて午前には落ち葉拾いとたい肥づくり、午後には忍者修行体験と各隊の活動発表が行われました。

落ち葉拾いとたい肥づくりでは、里山かがく学院の辻本さん所有の里山「忍者の森」を見学し、熊手や籠を使ってたくさんの落ち葉を集め、袋一杯になった落ち葉をたい肥作りの場所へ運びました。その後、たい肥を作るための木枠の中に落ち葉を入れ、一定

の高さになったら踏み固め、水や土、米ぬかを重ね、何層も繰り返し落ち葉を踏み固めながらたい肥作りを行いました。



たい肥作りの様子

忍者修行体験では、忍者の先生から忍者に関するお話と忍術についてレクチャーを受けました。九字という手印や畳の上を素早く動く忍者の動き、棒手裏剣を的に当てる体験などを行いました。



忍者修行体験の様子

体験活動の終了後は、各隊が日頃行っている活動について発表しました。御在所岳での植樹活動や赤トンボマーキング、合同キャンプなど、自然と触れ合いながら隊員同士が楽しく活動している様子が伝わってきました。

おわりに

みどりの少年隊活動の主役は子どもたちですが、子どもたちの様々な体験や学びを支える地域の指導者や保護者の方々の日頃の温かい見守りとご指導に、心より感謝申し上げます。

第4回みえ森林教育シンポジウムを開催しました

三重県林業研究所 普及・森林教育課

令和8年1月31日（土）、鈴鹿市のスズカト（三重県立鈴鹿青少年センター）にて、第4回みえ森林教育シンポジウムを開催しました。

当日は、「未来の森林と暮らしのために、私たちが今できること」というメインテーマのもと、参加者の皆さまによる活発な議論、意見交換が行われました。

◆はじめに

三重県では、令和2年に策定した「みえ森林教育ビジョン」に基づき、森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会をつくるために、誰もが森林や木に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人に育つことを促す「みえ森林教育」の取組を進めています。

こうした中、子どもたちが森や木に触れる機会を数多く提供するとともに、森のこと、木のことについて、より深い学びを得るために私たちができることを考えることを目的として、第4回みえ森林教育シンポジウムを開催しました。

◆プログラム概要

<9:30～12:00>第1部ワークショップ

●幼児教育・保育セッション

テーマ：森とつながる原体験

●学校教育セッション

テーマ：森や木に関わる機会づくり

<13:00～16:30>第2部ステージイベント

●第12回みえの森フォトコンテスト表彰式

●トークセッション

テーマ：持続可能な社会の実現と森林

～知ってほしい 森のこと 木のことを～

◆開催概要

午前中の第1部では、「幼児教育・保育セッション」、「学校教育セッション」の2つのワークショップを実施し、保育園やこども園等の先生、小中学校等の先生、森林教育指導者、保護者の方など、あわせて108名の方にご参加いただきました。お茶の水女子大学の宮里暁美氏（幼児教育・保育セッション）、山梨県都留市ネイチャーセンター博物館の佐藤洋氏（学校教育セッション）による進行のもと、事例発表やグループワーク、全体討議が実施され、各年代に応じた森

林教育の進め方や課題などについて議論を行いました。

また、午後からの第2部では、第12回みえの森フォトコンテストの表彰式とトークセッションを実施し、関係者を含め174名の方にご来場いただきました。トークセッションでは、コーディネーターとして、株式会社モリアゲの長野麻子氏、パネリストとして、岐阜県立森林文化アカデミーの小林謙一氏、叶林業合名会社の堀内楓子氏、一般社団法人中部SDGs推進センターの百瀬則子氏をお迎えし、より多くの人に、森のこと、木のことを知ってもらって、森を想う人を増やしていきたい、そのために何ができるかを考えるという趣旨のもと、登壇者によるトークや会場との意見交換等を実施しました。

当日は、第1部、第2部の全体を通して、参加者の皆さまにとっても熱心な議論、意見交換をしていただいたところであり、参加者アンケートにおいても、「とても参考になった」「次回もぜひ参加したい」等の好評の声を多数いただくなど、とても充実した1日となりました。



第1部 ワークショップの様子

◆今後について

今回のシンポジウムで得られた成果等も生かしながら、関係者の皆さまと連携して森林教育の取組をこれまで以上に拡大し、深めていけるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。最後になりますが、開催にご協力いただきました皆さま、本当にありがとうございました。

ノウフク・アワード2025 フレッシュ賞受賞！

NPO法人 笑福 代表理事 藤岡 まり さん

聞き手：三重県尾鷲農林水産事務所 林業普及指導員 伊藤 克之

今回は、農林水産と福祉をつなげているNPO法人 笑福の藤岡まりさんにお話を伺いました。またその取り組みが評価され、ノウフクアワード2025においてフレッシュ賞も受賞されています。



授賞式の様子(左下が藤岡さん)

(Q.NPO法人 笑福について教えてください。)

NPO法人笑福は、紀北町を中心に活動し、引きこもりや障がい者、生活困窮など、生き辛さや働き辛さを抱えた方たちの地域での居場所づくりに取り組んでいます。「働く＝社会参加」をテーマに、農福連携、林福連携、水福連携を通じて地域とのつながりを広げ、活動しています。

(Q.活動のきっかけを教えてください。)

私たちの活動のきっかけは、地域の方々からの「畑の土おこしを手伝ってほしい」「畑の草刈りに困っている」「休耕田が増えて困っている」といった声でした。それに対し、「働きたいけど働く場所がない」「収入を得て自立したい」「距離を取りながらも人と関わりたい」といった障がい者や困窮者の方々の声もありました。お互いの困りごとをうまく解決できるのではないかと考えたことが、活動の始まりです。

(Q.具体的な活動内容を教えてください。)

地域の農業、林業、水産業の多様な仕事を請け負うことで、それぞれの方に応じた仕事を年間通して提供しています。林福連携に関して言うと、森林組合さん所有のヒノキ苗畑の草抜きや、ヒノキの葉を加工して作るスマッジやヒノキオイルの原料となる葉っぱをしごく作業などを、年間を通じて行っています。

引きこもり状態の方への支援では、最終的に外出や社会参加を促すことを目標としていますが、最初の一步として内職を提供しています。この作業を通して私たちとコミュニケーションを取りながら、少しずつ社会参加を進めています。地域の特産品と連携できる点も利点の一つです。ヒノキの葉の加工をきっかけに、これまでに複数名が引きこもりから脱却しました。

(Q.今後の抱負を教えてください。)

ヒノキの葉っぱをしごく作業は引きこもり脱却に非常に効果的であるため、ヒノキオイルの活用方法を増やしていきたいです。

また今後も、年間を通じてそれぞれに合った作業を提供するため、新たな作業種を増やしていきたいと考えています。



ヒノキオイルせっけん



ヒノキスマッジ(お香のようなもの)

長森なあなあ日常 ～皆さん林業は好きですか?～

松阪飯南森林組合 長森 悠介

みなさん、どうもお久しぶりです。

松阪飯南森林組合に所属しております、長森悠介です。

私事ながら、最近登山を始めまして。

山仕事の端くれに携わりながら、休日も山に登っていく物好きな人間となりました。

物好きな人間に進化?退化?して思うことは、前まで見えていた景色と今ではまるっきり異なるということです。

例えば、現場への移動の最中に今までは名のない「山」として見ていた風景が、今ではネームドキャラのように「栗の木岳」「迷岳」と名前を帯びて見るようになりました。

それまでは山の名前だったり地名だったりを知っても、正直なところ興味がなかったので全然覚えられなかったことが打って変わって覚えられるようになったと実感しています。

好きって感情は僕にとって曲者で、コントロール不可能なものです。

長くやっていたら好きになる、ということは僕自身あまりなく、自分でも意図していないタイミングで好きになっていき、意図していない深さでのめり込んでいくじゃじゃ馬のような感情です。

よく「好きなことばっかりしてたらあかん」だとか「嫌いなことを減らしていけ」と言われますが、同じだけ「好きなことを増やしていけ」とか「好きなことならとことんまでやれ」と言わなければ逆にバランス取れてないのでは?と思ったりもします。車のアクセルとブレーキみたいなもので、どっちも大切な考え方だと僕は思いますので。

好きとか嫌っていう感情は、思うようにコントロールすることが不可能なアクセルとブレーキだと思うんで、事故が起きないようにバランスさえ取れていれば人によって比重が違えどオツケーなのではないでしょうか。

「林業」という広いようできて、とんでもなくちっちゃな世界だけで考えてみると、好きなことを見つけることは難しいのかなって思ったりします。

好きよりも、つらいしんどいめんどいという気持ちが勝ってしまうと思うんですよね。

僕自身は現場で作業をしていた頃は、機械について覚えたり修理したりすることに非常に苦戦しました。

そもそも車にすら興味が湧かないタイプなんで、様々な部品やら機能やらを人に聞いたり自分で学んだりしてみても、興味があるタイプの人とは情報の

吸収速度が雲泥の差でした。

「仕事やろ」という至極真っ当な意見を言われてなければ覚えようとしめない領域と正面切って向き合う経験は、大変有意義ではあったのと同時に好きでないことと向き合う労力の大きさを実感するものでもありました。

きっとこんなことは僕だけではないよな、と勝手に思います。コミュニケーションが嫌いな人もいれば、頭を使うことが嫌いな人もいれば、暑いのが嫌いな人もいれば、汚れることが嫌いな人もいると思うんですね。でも、それを吹っ飛ばすほどに好きなことが何かあるんなら、それでいいのではないのでしょうか。

さて、いったい何人おるかかわからない読者の皆さん。ここらでいったん胸に手を当てていただきまして。林業でなんらかの好きなことを思い浮かべてみてください。

どうなんでしょう、ない人の方が多かったりするんとちゃいますか? w

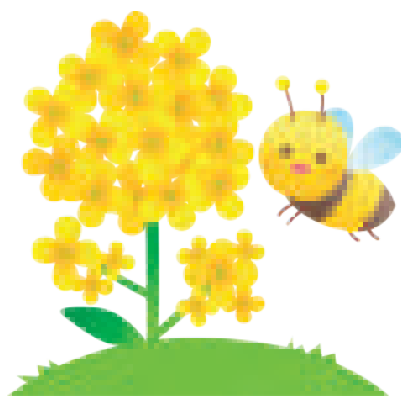
思い浮かんだラッキーなあなたはこんな文章読むのをやめて、その仕事向いてますんで好きに向かって突っ走ってください。

思い浮かばなかった、そこのあなた。好きなことがすぐには浮かばなくても、他よりはマシだと思っていたり、家族のことを頭に思い浮かべて頑張っていたりするのかもしれませんが。

その仕事の中で何か些細なことでも「いいな」と思えることだったり、「もっとこうだったらいいのにな」と思うことを意識してみたいです。なんかのエネルギーになりそうな気がするんでね。

エネルギーが余っているところにしか人は寄ってこないと思うんで、少しでもみなさんが明るくいてくれるように願っております。

それでは、さようなら!



架線集材のおはなし ～株式会社川口屋に聞く～

聞き手：松阪農林事務所 林業普及指導員 妻藤 李白

今回お話を伺ったのは、株式会社川口屋（以下、川口屋という）3代目社長の川口大輔さんです。

川口屋は三重県内では珍しく架線による集材を行っている林業事業者です。三重県は地形が急峻なことから森林作業道を設置できない場所もあり、今後注目されていくであろう架線集材についてお話を聞きました。



川口大輔さん

その炭焼山の立木を購入し木材の素材生産業を行うとともに、当時新しかったプロパンガスの販売も始めましたので、今は住設部と木材部を設置して会社経営をしています。

Q. 素材生産業というのは林業と違うのですか？

A. 素材生産業というのは「林業」の一部ではありませんが、山（立木）を買うところがスタートで、購入した立木を伐採、造材し販売するところまでを行っています。同じ林業でも造林業は植林や、枝打ちなどの育林を行います。当社のような素材生産業者は基本的には行いません。そのため、ひと口に林業事業者と言っても素材生産業者と造林業者では、仕事内容が大きく異なります。

Q. 素材生産業者として大切にしていることは？

A. 先ほどお話ししたように、素材生産業者は山を買うところからスタートするので、言ってみれば仲買業と似たような側面があります。

山（立木）を売ってくれる森林所有者に喜んでもらえるよう、できるだけ良い値で山を買うこと。そして、材を買ってくれる人に満足してもらえるよう、良いものをお手頃価格で提供すること。それらを可能にする技術力を持つことを目標にしています。



架線による全木集材

Q. 川口屋は県内では珍しく架線を張って集材を行うスタイルとお聞きしました。作業道よりも架線を多用される理由をお聞かせください。

A. 現場条件によって作業道と架線のどちらでも搬出できる場合がありますが、作業道でしか搬出できない現場、反対に架線でしか搬出できない現場もあります。会社としてできることを増やすことで様々な現場に対応可能となりますし、現場ごとに最適な方法を選択することで効率的な素材生産につながっています。



川口屋の原木“作”の刻印

Q. 架線集材の利点は何ですか？

A. 架線集材の利点は主に2つあり、材を全木（枝葉がついた一本の木）で山土場まで下ろせる。作業が早い。という点が挙げられます。

作業道集材の場合、伐倒現場で造材（玉切りや枝払い）を行い、3mや4mに切ったものをフォワーダへ積んで山土場まで下ろすため、作業道線形によっては6m材などの長尺物を運べない場合があります。

一方で架線集材では、全木で山土場へ下ろしてから山土場で造材するため、容易に必要な長さに調整できます。また、全木で集材することにより山に枝葉が残りづらく、再生林を行う際の地拵えの省力化にも貢献しているという話も聞いています。

次に作業時間についてですが、弊社の2.2 t吊の集材機を用いた場合、一度に2~3本の木を、もの数分で運ぶことができるので、運搬速度が圧倒的に早くなります。なお、架線運搬を行っている傍ら山土場では並行してプロセッサを用いた造材を行うため、効率的に作業を進めることができます。また、作業道運搬で発生するフォワーダへの積み込み、積み下ろしの時間を省けることも大きいと思います。

Q. 逆に架線集材のデメリットを教えてください。

A. 架線集材のデメリットとしては、設置に技術と経験が必要なこと、架線特有のコストがかかることです。

弊社では主にエンドレスタイラー方式で架線を張っておりますが、現場ごとに条件が様々異なるため架線の設計には特別な知識や経験を要します。元柱と先柱をどこに配置するとより効率的になるのか、索道が垂れ下がった時に地面に擦らないようにするにはどれだけの高さを確保する必要があるかなど、設置する上で発生するいくつかの注意点を見通しのできない林の中でイメージしながら、索道の設計に反映する必要があります。

また、コスト面についてですが、弊社では安全面を考慮し基本的に現場ごとに新品のワイヤーを使っているため、1度の架設で200万円くらいの費用をかけています。ただし、きちんと設計を行うことで不必要な張り直しや張替えを減らし、コスト面でも効率化を図っております。



プロセッサでの造材作業

Q. 伐採や造材をするうえで気を配っていることはありますか？

A. 作業工程について工夫しています。まず、架線の設置範囲を先行して伐木する必要がありますが、架線設置後、搬出を行っている間にも安全に伐木作業などができるような順番を考えたり、伐木する方向や量を適切にすることで集材作業の効率化を行っています。

また、山土場で造材できるメリットを生かし、市場の需要を把握しながら6 m材や5 m材の生産も行うなど、材価向上の工夫もしております。



2.2t吊集材機

Q. 山(立木)を購入する際にこういったところに着目していますか？

A. コスト的な事も含めて出材可能かどうかを最も重要です。現地で出材の方針を決め、材の売り上げ予想額とかかる経費を勘案し、見合った金額を森林所有者へ提示します。

良材が採れる山のため、0.4haで架線集材を行う予定の現場もありますが、基本的には3.0ha以上のまとまった面積があるとコスト的に見合う場合が多くなります。架線は1,500m程度まで張れるため、その範囲に元柱と先柱を設置できるような尾根筋があるのかとか、土場まで最低でも3 tトラックを入れることができるかなどを検討しています。

Q. 今後の方針は？

A. 最近5.0 t吊の集材機を導入したことにより、山から一度に倍の量の木を下ろすことが可能となりました。また、新たなグラップルの導入も検討しておりますし、昔から受け継いできた技術に最新の技術を組み合わせ、より効率的な素材生産を行っていく予定です。

昔から山は資産でした。先人達が植え、育てた「宝の山」を、少しでも価値化できるよう、弊社が持っている知識と経験を活かして頑張っていきたいと思っております。

<三重大学>第35回 森林利用学 雑感

三重大学 名誉教授 石川 知明

これまでの約40年間、森林利用学に関する研究をしてきました。その間、チェーンソーの振動問題、森林作業における作業者の生理的負担、ヘリコプター集材、小型林内作業車、高性能林業機械、森林レクリエーション、森林ボランティアなど多くのテーマに関わってきました。これらを通して、今、森林利用学について感じることを綴っておこうと思います。

(森林利用学との出会い)

森林利用学というものに出会ったのは、大学の講義を受けたときでした。1970年代後半のことで、研究分野は「林業工学研究室」という名前でした。講義の内容は、林道作設などに関わる森林土木学、伐採搬出作業に関わる林業機械学などでした。森林土木学では、最適林道密度理論や林道密度と集材距離との関係、路面浸食などを学びました。これらの理論は現在も森林利用学の基礎となる重要なものです。林業機械では、代表的な林業機械であるチェーンソーの構造や使用方法、振動障害について学びました。当時、チェーンソーによる振動障害は大きな問題となっていて、様々な対策が取り組まれていました。チェーンソーに手を触れずにアームなどを介して操作する器具、レシプロエンジンの代わりに振動の少ないロータリーエンジンを使用したもの、圧搾空気を動力として使用したエアソーなどが開発されていました。搬出機械では、デルピスというホイール式の小型林内作業車、架線集材、単線循環(モノケーブル)式などを学びました。

これらのなかから卒業研究のテーマを選ぶことになりました。チェーンソーの振動対策は興味深いものでしたが、アームなどを介して操作する器具はあまりにも作業能率が悪く、また、小型の可搬式機械の動力としてはレシプロガソリンエンジンが最適であるということがわかって興味がなくなりました。

また、小型林内作業車のデルピスは運転席の後ろ側に荷台があるため車両の長さが長く、さらにホイールタイプのために小回りが利かないという大きな欠点があり、実用的ではないと感じていました。

そのようななか、京都市北部の垂木や床柱といった高級材を生産する林業が盛んな地域でヘリコプターを使った集材作業が行われるということを知り

ました。当時、ヘリコプター集材は珍しく、集材作業の作業分析やヘリコプター集材を行った搬出業者へのアンケートなどに興味を持ち、これを卒業研究のテーマにしました。この研究を通して、林業関係者の方々と直接お話をし、いろいろなことを聞かせていただける貴重な体験をし、現場が求めていること、現場で役立つ研究が重要であることを実感しました。

(小型林内作業車)

大学卒業後、興味を持って取り組んだのは、クローラタイプの小型林内作業車による搬出作業でした。この搬出方法には以下のような利点がありました。

- ・走行する森林作業道の幅員が2m未満で済むこと。
- ・横積みタイプのためトラックタイプのものに比べて車両の長さが短く、小回りが利くこと。
- ・クローラタイプのためスイッチバック走行が可能で森林作業道の線形が柔軟に設定できること。
- ・ウィンチを装備して林内作業車だけで地曳の木寄せや積み込みが可能なこと。
- ・1台につき一人で作業が可能なこと。

などがありました。

いくつか欠点はあるものの、2m未満の幅員の森林作業道で線形の設定も柔軟に行えるこの搬出方法に魅力を感じて研究をしていくことにしました。まず取り組んだのは、作業分析でした。木寄せ距離や森林作業道上の集材距離によって作業時間がどのようになるのかを予測すること、生産性を向上させるためにはどのような改善をするべきかを明らかにしていきました。次に、必要かつ最小限の森林作業道はどれくらいで配置はどのようにすべきかということに取り組みました。木寄せがしやすく丸太が集まってくる場所を予測して、その場所に森林作業道を優先的に作設していくことで、必要最小限の森林作業道の配置を決めていくという方法を開発しました。

この搬出方法は、生産性は低いものの、少人数で作業できること、機械の購入費や維持費が少額で済

むことなどから、いわゆる一人親方や自伐型林業の事業体にとって大変有効な搬出方法であると考えています。

(高性能林業機械)

小型林内作業車の研究をしている頃に、高性能林業機械の導入が始まりました。高性能林業機械は、生産性を大きく向上させるとともに、労働安全性の向上にも大きく寄与するというので、導入が積極的に進められました。私が高性能林業機械の調査を始めたのは、三重県南部の森林の高密度路網とタワーヤードを組み合わせた搬出作業で、三重県や奈良県の方々と共同で、作業分析を行いました。タワーヤードは急峻な地形で作業ができるため、日本に適した高性能林業機械として期待されました。しかし、従来の集材架線と異なり、タワーヤードは数百m程度の集材距離で能力を発揮するため、森林道路の整備が必須でした。そのため、森林道路整備ができていない森林ではタワーヤードの能力を十分に発揮できませんでした。

その後、車両系の高性能林業機械の導入が進みました。幅員3m程度の森林作業道を高密度に作設し、スイングヤード(あるいはウィンチ付きグラップル)で木寄せ、プロセッサで造材、フォワーダで集材という3点セットが主流でした。この方法は、生産性が高い、作業の安全性が高い、作業者の労働負担が小さいなどの利点がある反面、以下のような欠点がありました。

- ・木寄せ作業は2人で行う必要があり、生産性が低くなる。
- ・フォワーダによる集材距離が長くなると生産性が低くなる。
- ・機械経費が高いため、採算性を確保するためには一定の伐採搬出量の確保と高い生産性の維持(無駄のない作業)が必要になる。
- ・幅員3m程度の森林作業道を高密度に作設するため、林地荒廃を招く危険性がある。

これらのうち、一定の伐採搬出量の確保は高性能林業機械の導入にあたっての最大の課題であると考えています。

(機械化の選択)

機械化の利点としては、生産性向上による経費の低減と労働安全性の向上があります。高性能林業機械を導入した場合、その効果を発揮させるためには、機械経費に見合う生産性を発揮させる必要があります。そのためには、それぞれの機械の性能を十分に発揮させるための作業条件を整えること、生産性の向上に伴って必要となる伐採搬出量を確保していく

必要があります。作業条件を整えるといっても、小規模分散の林地でしかも地形条件が複雑なところで高性能林業機械の性能を十分に発揮させられるかは疑問です。さらに、高性能林業機械1セット当たりに必要な年間の伐採搬出量は私の試算で4,500m³程度です。この伐採搬出量を毎年確保しなければ経費の低減はできません。高性能林業機械について、労働安全性の向上には大きな意義があると思います。ただ、生産性の向上や経費の低減を実現するには年間伐採搬出量の確保が必須であることを理解しておくべきです。高性能林業機械を否定するわけではありませんが、これらのことを熟慮して、高性能林業機械の導入を進めるか、生産性は低いものの小規模な事業体に適した搬出方法を選択するかを判断すべきと考えます。

(森林利用学について思うこと)

森林利用学は木材生産を中心とした研究分野です。木材生産のための林業機械学、森林土木学、計画的な生産のための森林情報学、これらを中心とした研究に軸足を置くものです。そして、それらの研究成果は林業、特に林業現場に貢献するものであってほしいと願っています。新しい機械や作業方法の開発に積極的に取り組むとともに、従来の機械や作業方法の改善など林業の現場が直面している課題を着実に解決していただきたいと願っています。



(小型林内作業車による搬出作業)



(プロセッサによる造材作業)

木材の強度と最も関係の深いものは何？

林業研究所 研究管理監 山吉 栄作

節の大小や数、年輪幅といった視覚的なものや、重さ、たわみにくさといった体感的なものを基に、木材の強度を推定する場合、何が強度と一番関係が深く、精度良く推定できるかについて検証しました。

はじめに

スギやヒノキの中で、強い木材が欲しい時、皆さんは何を判断基準にしていますか？よく耳にする話では、年輪が詰まっているものは強い、節の多いものは強い、あるいは重い（密度の高い）ものほど強いなどがあると思います。では、これらは正しいのでしょうか。

そこで今回は、当所で実施した柱の曲げ強度試験のデータを基に、いくつかの項目と曲げ強度の関係をご紹介します。

1. 各項目と曲げ強度の関係

既往のスギ柱（105 mm角×3 m長）74本の曲げ強度試験データを基に、各項目と曲げ強度の関係を示します。

1-1. 年輪幅（平均年輪幅）

柱の両端部の断面（木口）において計測した平均年輪幅は、最小1.6 mmから最大6.6 mmまでの範囲でばらつき、平均値では4.2 mmでした。この平均年輪幅と曲げ強度の関係を図-1 に示します。図中

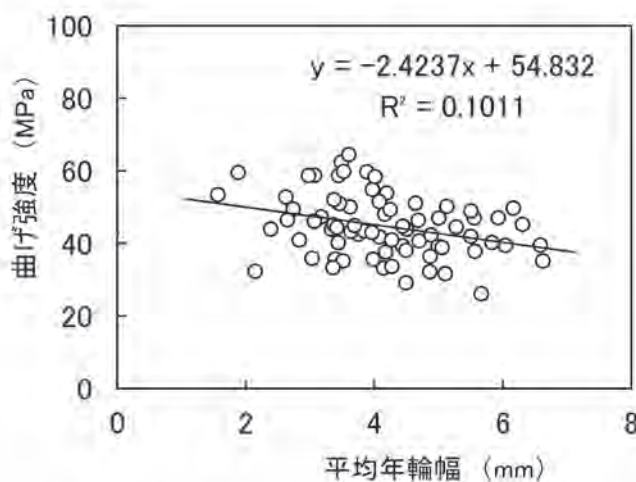


図-1. 平均年輪幅と曲げ強度の関係

には、単回帰式の直線を示しましたので、何となく右下がりですが、年輪幅が広くなると強度は下がるようにも見えますが、両者の間の相関は弱く、年輪幅で強度を推定するのは難しいといえます。では、なぜ相関が弱いのかといいますと、曲げ破壊の多くは、応力が集中しやすい節まわりから生じていることから、強度に対する影響力は年輪幅以上に、節の存在の方が大きいと考えられます。

1-2. 節の多さ（集中節径比）

製材の日本農林規格（JAS）では、節の多さや大きさは、最大の単独の節や、節が集中している箇所の各節の径を計測し、節径比や集中節径比といった指標で表します。なお、集中節径比は、各材面の材長方向における長さ15 cmの区間に最も節が多く含まれる（集中している）箇所において、各節の径の合計値を材幅で割って百分率（%）で求めます。

ここでは、集中節径比と曲げ強度の関係を図-2 に示します。前述の年輪幅と同様、両者の間には相関は見られません。しかし、木材の曲げ破壊は、材の下面側において、特にたわみ量が最大となる中央付近や材縁部に節がある場合、ほぼ間違いなく節から生じていることから、節が強度低下に関与していることは明らかです。では、なぜ集中節径比と曲げ強度の間に相関が見られないのかといいますと、集中節径比は全長における4材面にある全ての節を対象としているので、集中節径比の箇所が中央付近の下面にくるとは限らないため、必ずしもその箇所で曲げ

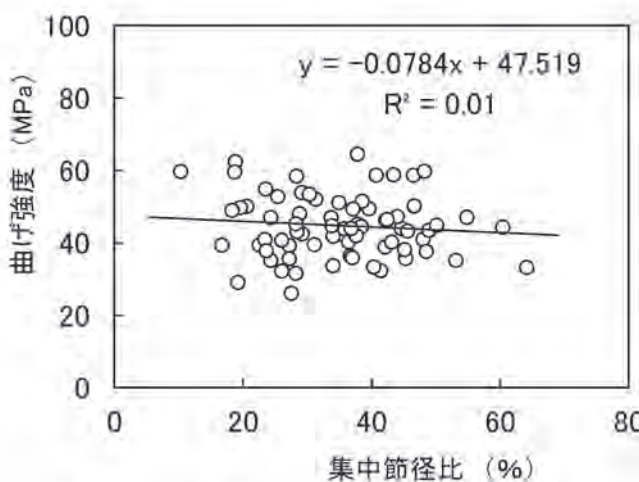


図-2. 集中節径比と曲げ強度の関係

破壊が生じるわけではないからです。よって、製材JASの集中節径比から強度を推定することは難しいといえます。ただ、節が強度低下の要因になっていることは確かですので、梁桁材として利用する際は、節の多い面は上面側にするとといった、ちょっとした配慮は大事です。

1-3. 重さ(密度)

一般的に樹木は、たくさん水を吸い上げる春から夏にかけて重く、水の吸い上げが停滞する秋から冬にかけて軽くなります。このため、伐採の適期は、軽くて搬出しやすく、虫や腐朽菌のつきにくい秋から冬にかけてが良いとされていますが、この時期に伐採された木材であっても、伐倒直後の木材にはたくさんの水分が含まれています。よって、単純に重いといっても、水分を多く含んでいて重いのか、木質自体が重いのかは分かりません。そのため、重さと強度の関係を見る場合は、同じ水分量(含水率)に揃えてから見る必要があります。そこで、ここでは、人工乾燥により、含水率を約15%に揃えた時の密度と曲げ強度の関係を図-3に示します。この場合、前述の2項目とは違い、強度との間に相関が見られ、密度の高いものほど強度が高いという傾向がうかがえるので、密度から強度の推定はある程度可能といえます。

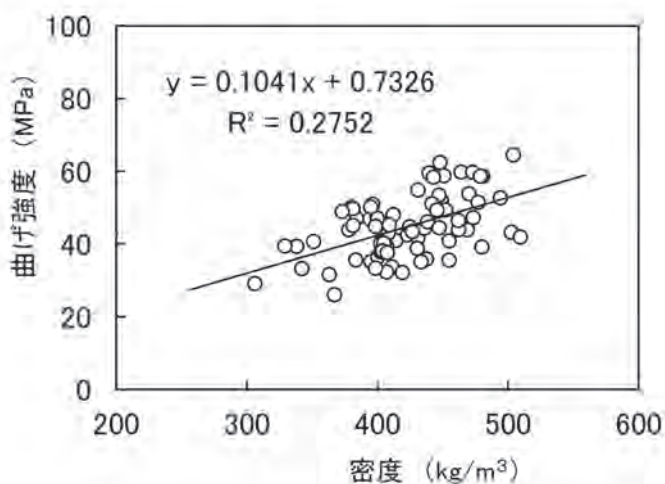


図-3. 密度と曲げ強度の関係

ただ、あくまでも含水率を揃えたもの同士で比較した場合ですので、未乾燥で、含水率がばらばらの木材を持ちあげて、重い方が強いとはなりませんのでご注意ください。

1-4. たわみにくさ(曲げヤング率)

木材のたわみにくさは、曲げヤング率という指標で表され、この数値が高いものほどたわみにくいと

いうことになります。なお、曲げヤング率を求める曲げ試験方法については、製材JAS(1083)に記載されていますのでそちらをご覧ください。

曲げヤング率と曲げ強度の関係を図-4に示します。曲げヤング率は、前項の密度よりも強度と密接な相関があり、曲げヤング率が最も精度良く曲げ強度を推定できるといえます。

ヤング率を求める方法は、曲げ試験方法以外に、材端の木口面をハンマーで打撃して生じる音の周波数と、材長、密度から算出して求める方法があります。このヤング率は、縦振動ヤング率とか、動的ヤング率と呼ばれるものですが、曲げ試験から求める曲げヤング率と相関が非常に高く、打撃装置自体も製材ライン上に載せやすいので、JAS機械等級区分の認定工場においては、導入されているところが多いと思います。

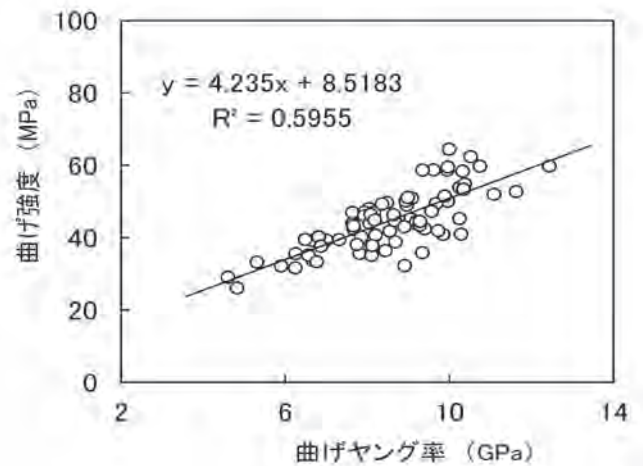


図-4. 曲げヤング率と曲げ強度の関係

おわりに

木材は、外見上、節の無いきれいな材であっても、材内には節や内部割れ等の欠点が含まれ、金属のような均質な材ではないので、見た目だけで強度を推定することは難しいです。今のところ、実際に曲げるか、打撃して求めるヤング率が、強度を推定するには最も適しています。なお、打撃によるヤング率は、丸太であっても求めることができますので、丸太のヤング率からどれ位のヤング率の製材品が取れるかを予測することができます。これにより、必要な丸太を選択的に製材することができます。詳しくは以下URLのリーフレットをご覧ください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000775018.pdf>

地域	区分	樹種	長さ	径	品質	平均価格	高値	前回比	市況
松阪	素材	スギ	3m	16~18cm	並	13,500	14,000	→	(供給動向、価格概況、先行き等) 【素材】 ・良い天気が続き、出材量もたくさんあった。 ・市況としては、ヒノキ、スギ共に良質材は引き合いが強い。 ・並材は横ばい。 【製品】 ・桧材中心になんとか売れているものの、全体的に市況は厳しい状況。
			4m	20~22cm	並	12,500	14,000	↓	
			4m	24~28cm	並	12,500	14,000	↓	
		6m	18~20cm	並	17,000	18,000	→		
		ヒノキ	3m	16~18cm	並	22,500	23,000	→	
			4m	20~22cm	並	21,000	22,000	↓	
	4m		24cm以上	並	21,000	22,000	→		
	製品	スギ	3m	10.5×10.5cm	特一	80,000	90,000	→	
		ヒノキ	3m	10.5×10.5cm	特一	90,000	100,000	→	

※価格は消費税抜きとし単位は円/m³。積込料、取扱手数料は含まない。製品はいずれもKD材。 前回は12月の市況との比較。

三重の林業(令和8年1月号)を読んで

~読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました~

(森林座談会:林業現場における人づくり、仲間づくり)

- ・大変参考になるご意見がたくさんありました。
- ・キャリアパスの不透明さは林業の課題として思うことがよくあります。
- (未来への思いやり~「自然共生サイト」認定と持続可能な森づくり)
- ・従業員やその家族だけでなく工場内で小学生に対し森林教育をしており今後の活動も期待したい。
- ・企業の参画による「自然共生サイト」の認定や森林づくり活動が広がりを見せてくれることを期待。

(三重トヨペット株式会社取り組む「ふれあいグリーンキャンペーン」が50回目を迎えました!)

- ・大きな企業がこういった取組を進めてくれることはとてもありがたいことだと思う。

(沖中造林株式会社が第64回全国林業経営推奨行事の農林水産大臣賞を受賞しました!)

- ・沖中造林のめざす林業について、大変感銘を受けました。
- ・自社の目指す林業を貫く姿勢はすばらしいことだと思う。

(高校で学んだ知識を活かし、原木の価値を見極める若き担い手)

- ・現場の第一線で女性が活躍されている様子が紹介されていた。

最初の一人になる方は様々な苦勞があると思うが、それを乗り越えることで森林・林業の世界にも新しい変化が生まれていくのではないかと。

- ・林業界にとっては彗星の如く現れた頼もしい存在。皆さんの信頼を勝ち取り、セリ人として活躍されることを期待します。
- (この人に聞く:中勢森林組合企画課 山田史恵さん 小林由依さん)
- ・お二人の信頼関係が随所に感じとれる一文でした。
- ・これからも多くの子ども達に森林の良さ、楽しさを伝えていってほしい。

(三重大学:デジタル化の先に~スマート化と住民参加の森づくり)

- ・ドローンによる林分写真を活用することで、現地に行かなくてもある程度の情報が得られることがわかりました。

(スギ・ヒノキの苗木の品種や生産方法について~特定苗木やコンテナ苗を知っていますか?~)

- ・特定苗木は花粉の害を抑えて材の質もよい、林業において夢のある情報だと思います。

- ・林業用種苗の品種や生産方法等がよくわかりました。

※いただいた感想、コメントを事務局で集約し掲載しています。



森林はさまざまな公益的機能を持っています。

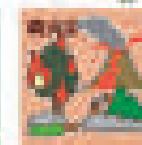
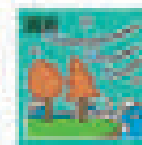
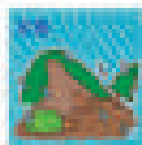
三重県森林協会は、豊かで災害に強い森林づくりを目指して活動しています。

治山・林道等の森林土木関係の標識板等の注文にも応じています。
お気軽にご相談ください。

一般社団法人 三重県森林協会

TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

台風・山火事などの災害による森林の損害に備え、森林保険にご加入ください。



「加入してよかった！」

お問合せ・お申込みは、お近くの森林組合または三重県森林組合連合会まで

守ろう地球と地域の環境 ー緑と水を育む水源林づくりー

私たちは森林整備センターによる
水源林造成事業を進めています。

三重県水源林造林推進協議会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104(林業会館内)
TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

森林づくりの(わ)を広め、健全な森を次の世代へ



植える 緑化から 使う 緑化へ

みんなの思いを、緑の募金でつなぎましょう

公益社団法人 **三重県緑化推進協会**

〒514-0003 津市桜橋1丁目104番地
TEL (059) 224-9100 FAX (059) 224-9118

緑の募金ー三重緑化基金

みえ **森** づくりサポートセンター

「みえ森づくりサポートセンター」は、みなさんの森林教育、
森づくり活動の支援を行う施設です。ご活用ください。

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内
TEL 059-261-1223 FAX 059-261-4153
mail miemori@zc.ztv.ne.jp web <http://www.zb.ztv.ne.jp/miemorisc>
(三重県が公益社団法人 三重県緑化推進協会に委託し運営しています。)



「林業就業希望者の相談対応」、「林業人材育成研修」、「林業経営体支援」など
林業に関する総合的なサポートを行います！



林業を支える人々を応援します、

森林を未来へ繋げるために



公益社団法人
みえ林業総合支援機構

津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所交流館内
Tel : 059-261-1398 HP : <http://miekikou.jp>



地元で育まれた品質の確かな
「**三重の木**」 認証材で家を建てよう！

三重県木材組合連合会

三重県木材協同組合連合会

会長・理事長

落合 賢治

津市桜橋1丁目104 林業会館内

TEL 059-228-4715

インテリアからエクステリア等 **木製品** **伐採 チェンソー・草刈機**

お任せください!

中勢森林組合 **見積無料!!** 三重県津市白山町南家城 915-1 **STIHL Shop**
 TEL 059-262-3020 <http://www.chusei-forest.jp> TEL 059-264-1070

森林・木材販売に関することならなんでもご相談下さい!

 伐採作業
 高枝切作業
 園床きの生産
 液体ガラス改質木材
 家具製作販売
 足場・支柱 製造販売

Forest 松阪飯南森林組合
 【本所】〒515-1411 三重県松阪市飯南町粥見 5725-3
 TEL.0598-32-3516 FAX.0598-32-3545
 ◆各支所所在地についてはHPをご覧ください <https://mi-sinrin.or.jp>

三重で木のこころ **OKO 緑オオコーチ**

三重のサステナブル建築アワード受賞
 みんなの信頼をコントロールする優良企業
 M3認定工場
 三重の木部認定工場

三重県大紀町大原町 473 TEL: 0998-26-1156 FAX: 0998-26-0606 Email: info@okochi.co.jp HP: <https://www.okochi.co.jp>

熊野の森から、やさしさをあなたへ
株式会社 nojimoku
 〒519-4324 三重県熊野市井戸町 4185-18
 TEL: 0597-85-2485 FAX: 0597-85-4056
 HP: <http://nojimoku.jp>

のじもくま

航空レーザ計測技術を活用した ICT 林業を推進



アジア航測株式会社
 三重営業所
 三重県四日市市安島一丁目5番10号
 KOSCO四日市西浦ビル
 TEL: 059-342-0501 FAX: 059-342-0503
 森林環境課・森林情報課
 神奈川県川崎市麻生区万福寺1-2-2 新百合21ビル

<http://www.ajiko.co.jp/>

持続的な林業経営を目指して

三重県林業経営者協会

会長 速水 亨

度会郡大紀町滝原870-34 ひのき家内

止るはじ



oh// 0120-82-1955